

実践事例④ 中野区立中野本郷小学校

1 取組・活動名

「オリンピック・パラリンピックから学ぼう」

2 取組・活動のねらい

- 児童に、日常的な運動・スポーツの実践による健康増進に興味・関心をもたせ体力向上を図る。
- 首都東京で学ぶことに誇りをもたせ、招致されるオリンピック・パラリンピックを生かして平和な社会の実現にすすんで貢献しようとする児童を育てる。
- 障害者理解教育を推進し、児童の人権意識を向上させる。

3 教育課程上の位置付け

- 生活科・特別活動・総合的な学習の時間 20時間

4 実施上の工夫

- オリンピック・パラリンピック教育において重要な事項として、体験や選手の方々から話を聞いたり教えてもらったりする場面を設定した。
- 障害者スポーツのひとつである「車椅子バスケットボール」を児童が体験し、障害者スポーツについてについて知るとともに、様々な工夫や努力について理解を深められるようにした。

5 本取組・活動の内容



「障害者スポーツを実践している方の講演会を開催①」

期日：平成28年11月24日

対象：全校児童 特別活動1時間

講師：リオ・パラリンピック日本代表
選手

(車椅子バスケットボール)



「障害者スポーツを実践している方の講演会を開催②」

期日：平成29年2月6日

対象：全校児童 特別活動1時間

講師：バンクーバー・パラリンピック
銀メダリスト

(アイススレッジホッケー)



「車椅子バスケットボールを体験」

障害者スポーツ体験を通して「車椅子バスケットボールでは足が使えないこと」に対しての苦労や努力、様々な工夫について理解を深めることができた。

- ・ さらに、用具・器具を活用することで児童が「自分たちも障害のある方々とスポーツができる」という体験ができ、共生の心を深めることができた。

6 成果

- パラリンピアンとの交流から、スポーツの魅力や楽しさに触れ、自らすすんで運動に親しもうとする意識を向上させることができた。
- 2020年に東京でオリンピック・パラリンピックが開催されることの意義について確認し、平和な国際社会への貢献のために自分ができることを考えることにつながった。
- 障害や障害者スポーツについて知り、障害のある方々の考えや日々の努力について理解を深めることができた
- パラリンピックの競技は、用具・器具を使用すれば健常者も一緒に楽しめるスポーツであることに気付き、共生できることの大切さを実感した。